

教職員スポーツ教室「キッズコーナー」報告

担当 課外教育委員会 熊本和正

第1回教職員スポーツ教室に、参加者のお子様達をお預かりする「キッズコーナー」を設けることになった。その理由は、教職員スポーツ教室が土曜日の午後に開催されるため、小さなお子様のおられる教職員がご家族みんなで参加できるようにすれば、参加者数が増えるのではないかと考えたからである。からだを動かす楽しい遊びを用意しておいて、お子様達をお預かりし、機嫌良く遊んでいただく間に、卓球教室を進行させようと考えた。

いろいろと検討した末に、キッズコーナーの対象年齢を小学校3年生(10歳未満)までのお子様とし、希望される場合は10歳未満のお子様でも親御さんと一緒に卓球教室に参加できることにした。記念会館のフロアを防球ネットで仕切り、フロアの三分の二を卓球教室に、残り三分の一をキッズコーナーに使うことにした。おなじフロアでお互いに目が届く範囲にいれば安心というわけである。当日の順序としては、受付の後、更衣をし、全員で準備運動(ストレッチ)をすることろまではご家族一緒に動いていただき、休憩のあとキッズコーナーを始めることにした。

第1回のキッズコーナープログラムは以下の通りであった。ふだんの授業で使っている用具と日常の身の回りにあるもので出来る遊びを用意した。

1. 名札作り(受付にて)
2. 準備運動(みんなでストレッチ)
3. 片手ほうきバランス
4. スリッパ飛ばし
5. 紙ひこうき飛ばし

6. 玉入れ
7. ミニボーリング
8. フラフープ
9. 風船遊び
10. 万歩計ゲーム
11. ぶんぶんごま作り
12. 紙鉄砲作り
13. ぬりえ
14. ヒットペット
15. おやつタイム

キッズコーナー参加者を20名~30名と予定し、担当スタッフを5名(鶴田、八頭司、中本、入川、熊本)とした。当日参加も大歓迎することにし、集まったお子様の様子を見ながら臨機応変に対処することを申し合わせた。

スポーツ教室当日、キッズコーナーには約11名の小学校1年生~6年生の子ども達が集まった。時々卓球をしている親御さんのもとへ行ったり、また戻ってきたりする子どももいたので、「約11名前後」の参加者となった。参加人数が予想より少なかったのも、最初はすべてのゲームをすることができるのではないかと考えたが、実際に始めてみると、子ども達はひとつの遊びに結構熱中してなかなかやめようとしなかった。これは意外だったが、子ども達に合わせてこちらもゆっくり構えることにした。それから、記念会館フロアが蒸し暑かったので、大事をとって早めの「おやつタイム」をとった。このおやつタイムが喜ばれたのは言うまでもない。

結局、用意したプログラムのうち実際におこなったのは、片手ほうきバランス(写真1、2)、ス

リッパ飛ばし、フラフープ、おやつタイム、ぶんぶんごま作り、ヒットペット(写真3~6)、の六つであった。風船は帰りのおみやげにした。それとプログラムになかった新体操のリボンもとても喜んでもらえた(写真7)。



写真1:片手ほうきバランス。ほうきの代わりにピロポロのスティックを使った。



写真2:片手ほうきバランス。誰が一番長くできるかな?

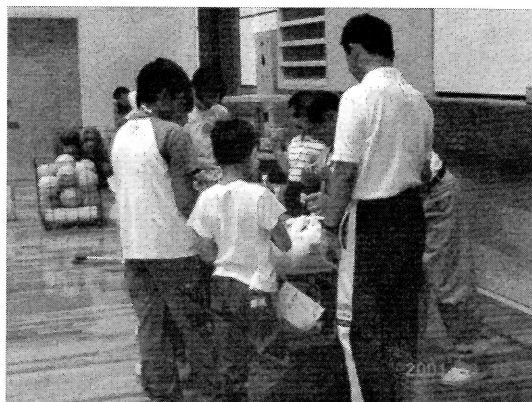


写真3:どうも机の上ではうまくいかないようだ。



写真4:床の上の方がペットボトルがうまく起きあがるようだ。



写真5:「ヒットペット」のコツは何かな?

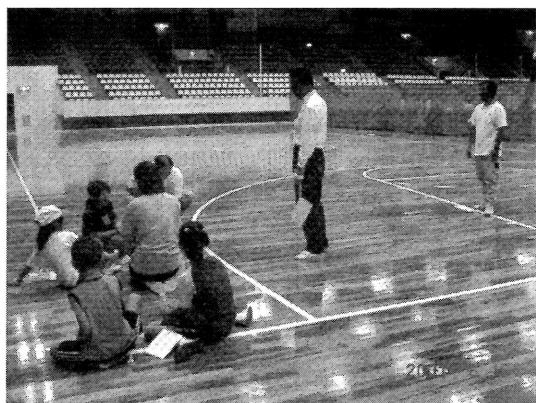


写真 6: だんだんうまく出来るようになってきた。



写真 8: 大きなエクササイズボールで遊ぶ。



写真 7: 走りながら新体操のリボンを振り回すのも好評だった。



写真 9: バドミントンで遊ぶ。

第二回教職員スポーツ教室(平成 13 年 12 月 15 日開催)には数名のお子様に参加されたが、キッズコーナー参加者は小学年生の男子 1 名のみだった。大きなボール(写真 8)でしばらく遊んでいた彼を誘って、筆者がマンツーマンでバドミントンのお相手を務めた(写真 9)。得点板をめくりながら、「勝負」をしたが、なかなかバドミントンが面白かったようで、たいへん喜んでもらった。おやつタイムをとってから、記念会館の観覧席にあがって、ご両親がバドミントンをする様子を上から眺めたりした。

第三回教職員スポーツ教室(平成 14 年 6 月 8 日(土)開催)のキッズコーナーには、6 名のお子様に参加し、例によって、親御さんの卓球教室の方に行ったり来たりなので“約 6 名”となった。第 1 回および第 2 回と比べて小さいお子様(幼稚園～小学校 1 年生)が中心であった(写真 10)。用意した道具と遊びはほぼ今まで通りであった。いつものように親御さんと一緒にストレッチングをしてから(写真 11)、キッズコーナーを始めた。

子ども達が小さかったので、片手ほうきバランスをバドミントンのラケットでおこなった(写真 12)。前に用いたピロポロのスティックでは重たくて片手の上に乗せられなかったのである。しかし、このバドミントンラケットでもあまり長く出

来なかった。しばらく時間をかけたが、なかなかうまくいかなかった。これは意外だった。手の平にのせる道具の善し悪しなのか、この年頃の子どもにはまだ難しいのか、検討の余地がある。

今回のキッズコーナーで子ども達に好評だったのは、スリッパ飛ばし(写真13)、スカイクロス(軽くて柔らかいフライングディスク)および新体操リボンであった。スリッパ(うわぐつ)を力一杯けりとばしたり、スカイクロスを思い切り投げて観覧席に入れてしまったり(守衛さんが回収して届けてくれたので事態がわかった)、リボンを猛烈に振り回し、叫びながら記念会館のフロアを走り回っていた子どもさんがいた。

第1回、第2回、第3回と回を重ねるに従い、こちらが用意した遊びを全部順序よくやらせようという考えがだんだんなくなってきた(実際に無理だった)。それよりも、いろいろな道具と遊びを用意しておいて、その中から子ども一人ひとりが気に入った事を心ゆくまでさせてあげた方が良く考えるようになった。危ないかどうか目を配りながら、一緒に遊んであげることにした。記念会館のフロアは広いので、走ったり、けとばしたり、投げたり(写真14)、跳んだり、振り回したりしても大丈夫だ。これで良いのだ。

おやつタイムをとって、もうしばらく遊んだ。親御さんの卓球教室の方が終わったので、子ども達を集め、礼をして、キッズコーナーを終了した。リボンを振り回して元気の良かった男の子が戻ってきて、「ありがとうございました」と大きな声で言ってくれた。こちらこそ、ありがとう。とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。



写真10：今回は小さな子が中心だった

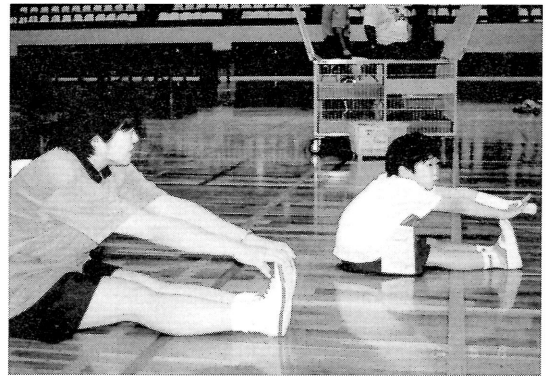


写真11：左手をケガしていた男の子



写真12：バトミントンのラケットではうまくいかない



写真 13：元気にスリッパとぼし



写真 14：ボールで遊ぶ男の子